

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西与賀小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日
令和3年5月27日（木）

■ 調査の対象学年
小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

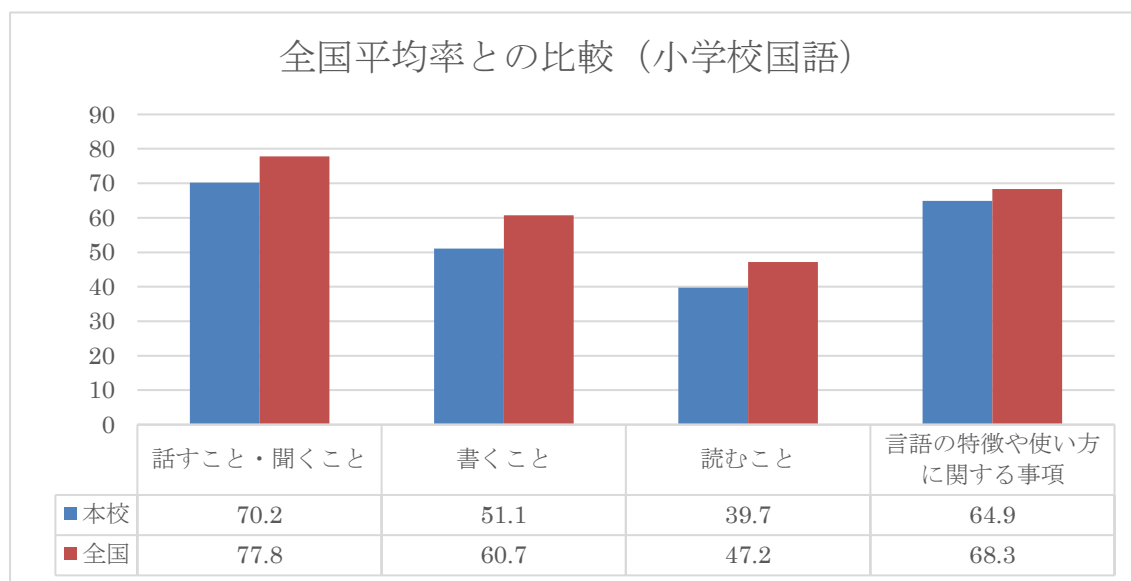
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

領域別にみると、4領域のすべてが全国平均を下回っています。また、無解答率をみると、記述式の問題についての無解答率が全国平均と比較して、高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査から、漢字の読み書きは、全国平均とほぼ同等の結果でした。一方で、「目的や意図に応じて、資料を使って話すこと」「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること」「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと」「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えること」について課題があることが明らかになりました。身に付けた言葉に関わる知識・技能を使って、思考し、判断し、表現することが大きな課題です。読むことに関しては、文章全体の構成を大まかに捉えること。書くことに関しては、自分の主張が伝わるような文章構成や文の展開を考えること。話すこと・聞くことに関しては、目的や意図に応じて、話すことに課題があります。

(3) 学力向上のための取り組み

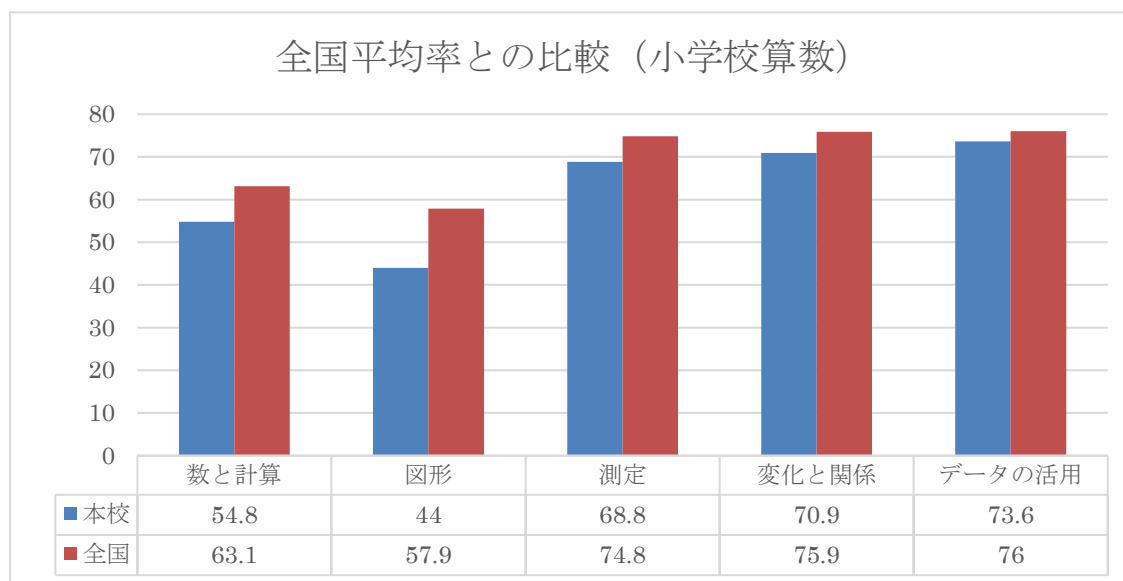
【学校では】

- 子どもが、これから取り組む言語活動のモデルを示しながらその考え方で示し、ていねいに思考できる場を増やします。
- 学びがいのある学習課題を設定し、自ら進んで学び進めることができるようにします。
- 自分が学んだことやできるようになったことを豊かな表現で、書く機会を増やします。
- 読める漢字、書ける漢字など使いこなすことができるような言葉を増やします。
- 子どもが興味をもち、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 読書の習慣を付け、身の回りの言葉に関心を広げるようにしましょう。様々なジャンルの図書に触れることはもちろん、様々な文字文化に触れることは、言葉の感覚を磨くうえで大切になってきます。知っていることを増やすだけでなく、使いこなせる言葉を増やすことができるように意識をしながら、本と触れ合いましょう。
- 普段の話し言葉や書き言葉で、言葉の言い換えや比較ができる言葉遊びをしましょう。使える言葉を増やすためにも、言い換え遊びや比べ遊びが有効です。「今の言葉を言い換えると？」「今の言葉と似た言葉は？」など、ちょっとした遊びで、使える言葉が増えていきます。

2 算数



(1) 結果

「D データの活用」の領域ではおおむね全国平均程度、その他の領域では下回っています。特に「A 数と計算」、「B 図形」の領域で全国平均と 10 ポイント以上差がある分野が多くみられました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数量関係」の領域では、速さや時間を求める問題など、割合や単位量当たりに関する問題に課題が見られました。

「B 図形」では三角形の面積を求める式が全国平均より 20 ポイント以上下回っており、公式の定着が不十分であることや三角形を組み合わせた面積がイメージできない、などの基本的な知識・技能に課題が見られます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業の初めに数分の時間を設け、計算練習を積み重ねること、タブレット端末を使って、個人の進度に合わせたドリル学習を行うことで基礎的な計算力の定着を図ります。
- 給食の準備時間を活用し、取り出し指導を進め、子どもたち一人一人の基礎・基本の徹底を図ります。
- 公式をただ覚えさせるのではなく、図や式を結びつけて理解させる、下学年のかけ算、わり算の段階から 2 つの量の関係や一方から他方を見るような数の見方を関連付けながら指導する、など学年を超えた単元のつながりをもって指導していきます。
- 様々な見方や考え方を使いながら、友達と一緒に問題を解決するような授業を多く取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って友達に伝える機会を増やし、説明する力の向上に努めます。
- 自分の学びがどうであったか考えさせる時間を今以上に設けて、確かな学びにつなげていくよう、指導していきます。

【ご家庭では】

- 子供たちの算数のノートやドリルの様子などを見て、「がんばっているね。」という称賛の言葉をたくさんかけてあげてください。
- 身の回りにある図形のおもしろさ、買い物の場面での割引や値上がり、ニュースに出てくるグラフや統計データなど、生活の中にはたくさんの算数の世界があります。それが授業とつながったとき、算数の面白さが感じられると思います。家族で見つけてみてはどうでしょうか。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	78.7	85.8
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	38.3	38.3
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	48.9	55
自分にはよいところがあると思いますか。	36.2	36.2
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	19.1	24.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	68.1	75.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	70.2	84.1

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。

挑戦心や規範意識の項目については、全国平均よりも下回っています。学力向上の取り組みだけでなく、子どもたちの心を育てることを両輪で取り組んでいくことが大切です。「自分ならできる」「やってみよう」「自分は役に立っている」「いじめはゆるさない」そんな心を育てていくため、「できた、成長した」と子供自身が実感できるような授業づくりや、学校行事への取り組みをしていきます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	17	31.2
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0	11.6
「2時間以上、3時間より少ない」	2.1	15.3
「1時間以上、2時間より少ない」	36.2	35.6
「30分以上、1時間より少ない」	42.6	24.5
「30分より少ない」	17	9.5
「全くしない」	2.1	3.5
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	14.9	29.8

家庭学習については全国平均を下回っています。1時間未満の児童が6割を超えており、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えたり低・中・高学年での家庭学習の時間の目安を伝えたりして、家庭学習が習慣化するよう指導をしていきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。低学年は30分、中学年は50分、高学年は70分の家庭学習の時間の目安を示していきます。
- 自主学习（自学）については、週末の課題として中・高学年で取り組んでいます。お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。自学がんばり週間では、毎日、自学に取り組むようにしています。
- 始業前（8:00～8:15）の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。

【ご家庭では】

- 佐賀県教育委員会からの「家庭学習の手引き」をご覧ください。家庭学習の習慣化に向けた4つのスツメに取り組んでみてください。「学ぶ雰囲気をつくる」、「生活のリズムを整える」、「小さながんばりをほめる」、「家族の対話を大切にする」の4つについて、効果のある“声かけ”や“関わり方”がっています。家庭学習の習慣化で、子供たちの学ぶ力をつけていきましょう。